

小郡市立大原小学校 学校だより(第17号)
令和7年9月19日 児童数 399名
重点目標 「自己肯定感を高め、自信をもつ子が育つ集団づくり」
校長 福永 隆二

自由研究 力作がそろいました

夏休みに取り組んだ自由研究の作品が、たくさん集まりました。どの作品も、子どもたちのアイディアや着眼点のよさが光っていました。

自分で実際に観察や実験を継続的に取り組んだ作品や、地元の歴史などを探究調査している作品など、見ている人に子どもたちのがんばりが、しっかり伝わってきました。



社会科の作品は、「小郡ジュニア歴史博士」 【低学年 貯金箱の作品】

【6年生の作品】

に応募しています。また、作文や詩、絵画、貯金箱なども応募しています。

保護者の皆様のお力添えに感謝いたします。

若年教員研修1年目 本校会場で行われました

9月17日、若年教員研修1年目が、本校を研修会場で行われました。この研修は、北筑後管内(久留米市を除く)小学校の教員1年目の先生たち(34名)を対象に行われる研修です。

本校の2年担任と4年担任が、1年目の先生を代表して、道徳科の授業を公開しました。

2年生では、「親切・思いやり」の価値について「くりのみ」の資料をもとに、本当に相手のことを思った親切な行為が、相手の心にしっかり届くことのすばらしさを考えました。

4年生では、「正直・誠実」の価値について「新次のしょうぎ」の資料をもとに、過ちを黙ったままにしておく、自分の気持ちが苦しくなること、自分にはうそをつけないことの難しさや大切さについて考えました。

どちらの学級の子どもたちも、たくさんの先生たちが参観されている中でも、自分の考えを発言したり、考えをノートにまとめたりする姿が見られました。



参加された先生たちにとって、学びの多い研修会になったと思います。研修終了後、北筑後教育事務所の先生方から先生の頑張りと、子どもたちの学ぶ姿に対して、たくさんほめていただきました。

【2年生 タブレットで考えを判断する】

小郡市長 あいさつ運動で来校

9月18日、小郡市長さんがあいさつ運動で来校されました。途中、小雨が降る中でしたが、子どもたちと元気なあいさつを交わしました。

子どもたちの中には、立ち止まってあいさつする子、自分から先に「おはようございます」と元気に言ってくれる子と、あいさつが上手な子がいます。

しかし、もう少し元気にあいさつをしてくる子が増えてくれるといいです。

市長さんが、「元気なあいさつをありがとう」と、子どもたちに声をかけてくださいました。

全国学力・学習状況調査について

小郡市教育委員会より、小郡市全体の結果についてお知らせがありました。遅くなりましたが、本校の状況についてお伝えします。全国平均を100として「国語98.9」「算数100.0」という結果でした。国語が全国平均をわずかに下回りました。

特に、国語と算数に共通している課題（正答率が低い問題）としては、「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」「自分の考えを説明すること」が挙げられます。つまり、自分の考えを表現する（与えられた条件で考えをまとめる）アウトプットが求められています。

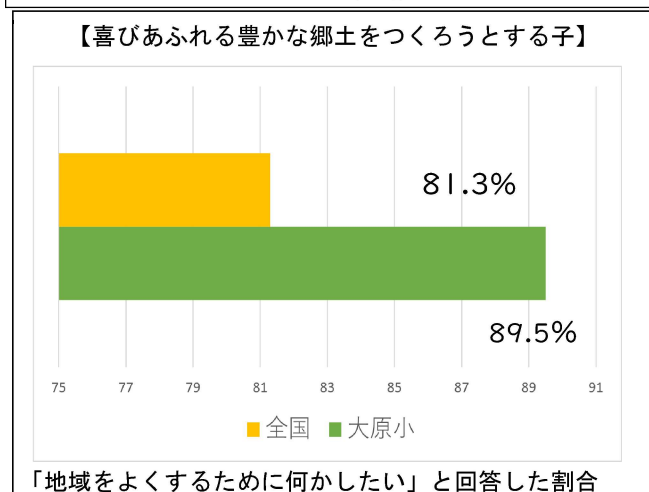
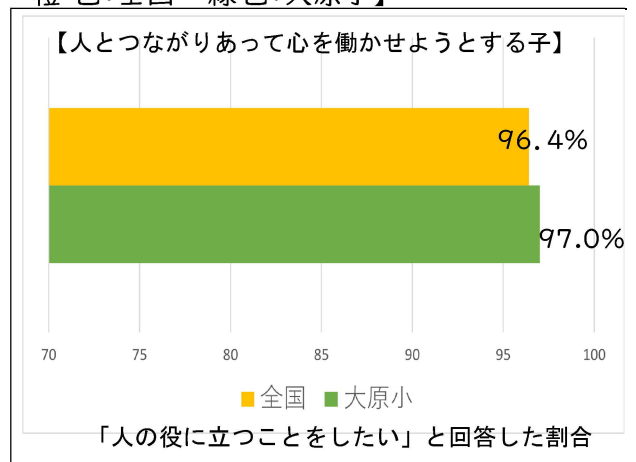
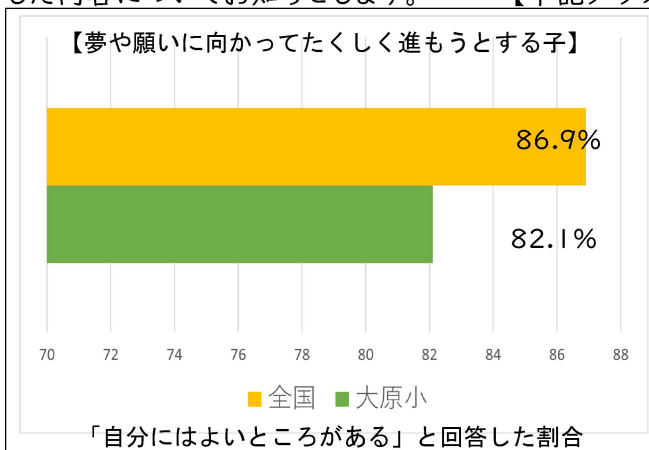
学校としても、「友達の考えを聞いて自分の考えを発表する」「学習を振り返って、自分が学んだことをまとめる」など、授業の中で実践できるように指導していきます。

しかし、この学力調査の結果は、「見える学力」の一部です。「見えにくい学力」としての、「他者と協働して問題を解決する力」や「善悪の判断力」、そして学力の土台となる「自己肯定感」や「我慢する力」「共感性」なども大事に育てていかなければならないと考えています。

そのためにも、子どもたちが安心して自分の考えを発表できる、受け止めてくれる学級集団になっておくことが必要です。「子どもが主語になる授業づくり、生活づくり」をしていこうと確認しているところです。

児童質問紙の結果について

全国学力・学習状況調査では、学習習慣や生活習慣、子どもたちの自己肯定感など「見えにくい学力」を知るための児童質問紙調査（6年生対象）も行われています。【小郡市がめざす子どもたちの姿】に則した内容についてお知らせします。【下記グラフ 橙色：全国 緑色：大原小】



「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合が、全国より下回っています。学校と家庭とともに、子どもたちのよさを認め、励まし、伸ばしていくことを心がけていきたいです。

一方、「人の役に立つことをしたい」「地域や社会をよくするために何かしたい」と回答した児童の割合が、全国より上回っています。

これも、保護者や地域の皆様の温かい見守りやご支援のおかげです。

また、「家庭学習の時間」が多い児童がいる一方で、少ない児童もいるようです。家庭学習の手引きをもとに、学んだことが定着できるようやり方を工夫していきます。

ご家庭でも、声かけや見守りなどよろしくお願いします。